



ごあいさつ

大阪府高等学校生物教育研究会協力会
副会長 井上 慎一

協会会員の皆様、お変わりございませんでしょうか。

長かった梅雨が明けてからは、連日猛暑日が続き、今年の夏はことのほか厳しく感じられました。温暖化で空気中の水蒸気が増え、世界中の気象現象の振れ幅がどんどん大きくなっているようです。この便りが皆様に届くころは、快適な毎日であればいいのですが…。

さて、8月9日から12日(現地研修によっては13日)まで、日本生物教育会第77回全国大会が、約250名の参加をもって18年ぶりに大阪で開催されました。今回、私も参加して参りましたので、個人的な記録と感想ではありますがご報告させていただきます。少々長くなりますが、お付き合いいただければ幸いです。

直前に迷走台風6号が九州の西を通過して、何とか大会は中止にならなかったのですが、新幹線が止まり九州方面の方ではキャンセルもあったようです。また、大会後の15日には非常に強い台風7号が和歌山から兵庫県に抜け、大きな被害をもたらしました。まさに、2つの台風の狭間で大会が実施できたことはラッキーでした。大会スタッフの方の気苦労はいかばかりだったのでしょうか。

今大会は「ほんまにおもしろい生物教育」をテーマに、近畿大学東大阪キャンパスをお借りして、すべて対面式での開催でした。マスクの着用者は2割弱でした。詳しいプログラムは、<https://sites.google.com/view/jabe77osaka/home/program> をご参照ください。資料は「大会要項(裏表紙は協力会有志一同の広告でした)」、「日本生物教育会会報」、「大阪の生物教育第50号」、「生物からみた大阪8」、「ほんまにおもしろい生物実践」、そして近畿大学の大学案内でした。

8月10日は9時30分から開会式が行われました。近畿大学は建物が新しくなり、会場となったホールや教室もガラス張り、軒の天井は金網のデザインで、朝ドラ「舞い上がれ」の一場面を思い出しました。さすがに志願者が20万人以上の大学です。

開会式では、高校のときの恩師で前協会会長の中野俊勝先生とご一緒させていただきました。先生と近畿大学の繋がり、今回も大学には何かと便宜を図っていただけたのではないのでしょうか。それにしても、3階まで階段で一気に上がられる中野先生の体力には感心してしまいました。来賓には大久保宣明教育監、細井美彦近畿大学学長、日本生物教育会名誉理事として中野先生と牧野修一先生が登壇されました。

続いて総会が行われ、会務・会計の報告の後、感謝状と日本生物教育会賞が贈呈されました。また、共通テストの講評では、「生物基礎」と「地学基礎」の平均点の差が今回も10点以上あり、問い合わせに対し入試センターがどちらも想定内の平均点だと回答があったので、改善要求をしたとの報告がありました。

総会に続いて、口頭発表がありました。おもに、教材と観察実験、探究活動についての発表を聞きましたが、どの先生もパワーポイントを使ったプレゼンテーションが上手で、どの発表でも理解しやすかったのが印象的でした。しかし、説明の中で「ロイロノート」「キャンバ」「GoogleWorkspace」「ThingLink」「Biome」などを当然のように使われるとイメージができませんでした。自分ではICTは得意だと思っていたのですが、甘かったです。ICTに苦手意識のある先生には発表のいくつかは、敷居が高かったかもしれません。

昼食後、午後も口頭発表がありました。その前に、ポスター発表会場に行き、説明を聞くことができました。園芸高校のバイオ研究部の生徒発表がいくつかありましたが、放線菌を自然農薬として活用する研究では、RNA配列をwebサイトの情報で検索する手法で菌の同定をしていました。使用する薬品が高価で先生から大切に使うように指導されているようでした。とにかく、理解も手法もしっかりしており感心しました。

午後の口頭発表は、自然選択に関する柴島高校の先生の作業教材と、大冠高校の先生の構内植生調査のグループ実践の発表を聞きました。どちらもやってみたく思っていたテーマなので興味深く聞くことができました。それにしても私が勤務していたころの柴島高校では取り組むのに躊躇する内容でした。その後の先生方の努力に頭が下がる思いでした。

研究協議は第3分科会「学ぶ意欲を引き出す授業づくり」に参加しました。5、6人で10グループに分けられての話し合いでしたが、各グループは事前に高校の特徴をそろえてあり、比較的同じ課題意識で話してきたのではないのでしょうか。渡されたテーマは、遺伝子のはたらきを穴埋めプリントで説明する授業でしたが、私はプリントを埋められませんでした。若い3人と経験の長い2人のグループでしたが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については難しいというのが共通点でした。入試を考えると取り組む時間がないのがいちばんの原因で、これは何十年も前からの課題でした。どのグループも活発に話し合っておられて時間が足りないようでした。

プログラム終了後は、学生食堂で懇親会でした。始まるまでの時間に、府立水都国際中学校・高等学校の若い先生と話をしました。この学校は大阪市立から府に移管された公設民営中高一貫校でYMCAが運営しているそうです。大阪府を離れてもう7年になりますが、学校現場の変化を痛感しました。懇親会の参加者は120名程度で、寺岡先生の乾杯のご発声で幕が上がりました。食事の呼び物は近大マグロでしたが、各自握りか巻きどちらか1巻までの制限付きでした。たこ焼きと焼きそばとビールはどんどん出てきたのでおなか一杯でした。鹿児島から台風の混乱の中、何とか懇親会に間に合った橘先生ともお会いできました。皆様も次に会われたときは、苦労の旅路の話(プロペラ機は怖い)を聞かせてもらってください。最後に次回以降の東京大会、新潟大会の紹介があり、二次会の案内ののち、盛会のうちにお開きとなりました。

11日は、記念講演から始まりました。講師は近畿大学水産研究所所長の升間主計先生で、近大水研の歴史を通して、マダイの成長選抜育種とクロマグロの完全養殖を紹介されました。個人的には、これまでのドキュメント番組などで既知の内容だったので、ウナギの完全養殖や、成魚や種苗の販売で研究費を維持している点などについてお聞きできればよかったですと感じました。また、質疑応答で、人工交配種(クエとタマカイのクエタマ、ブリとヒラマサのブリヒラ)の種苗生産による種の攪乱について質問がありましたが、淡水魚では問題視されるが、海産魚では薄まるので結果として問題は出ていないとの回答でした。近大では、絶滅危惧種の保全や種の多様性について研究されているはずですが、少し言葉足らずに感じました。

最後は、「生徒の声をもとにこれからの生物教育を考える」を演題にシンポジウムが行われました。パネリストは、近大生物理工学部の三谷匡教授、文部科学省の藤枝秀樹視学官、大教大附属池田の岡本元達先生でした。まず、事前に行った授業、実験、グループワーク、発表などについて生徒の意識アンケートの結果についての分析から始まりました。アンケートではなく、複数の生徒をパネリストにすればいいのにと思ったのは私だけでしょうか。大学では、生物学は実用性の高い分野と考えており、入試については暗記からの脱却が課題とのことでした。また、視学官からは、新しい学習指導要領では「探究」がキーワードで、「生徒に見出させる学習活動」を実践してほしいとの発言があり、具体的な内容として『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料が紹介されました。興味のある方は、ネットで検索してみてください。残念なことに、午後の現地研修の出発時間が迫り、十分に深められず終了となりましたが、現役の先生方が、「粘り強く学習に取り組む態度」と「自ら学習を調整しようとする態度」の評価を要求されて、戸惑っておられるのが想像できました。

現地研修は10コースが用意されていましたが、私は参加しませんでした。後で聞いたのですが、大台ヶ原2泊3日コースも台風にあわず無事に終了したようです。

さて、長々と書き連ねてきましたが、5年前に大阪での開催が決まり、コロナに振り回された3年を経て、今回すばらしい大会を作り上げられた実行委員の皆さんに最大限の賛辞を贈りたいと思います。お疲れさまでした、そしてありがとうございました。何よりもよかったことは、若い先生方がここに結集してくださったことです。研究会もこれで新しい芽が生まれました。協力会も現役の先生方の支援を継続していきたいと思います。協力会会員の皆様には、今後どうぞご協力をお願い申し上げます。

5月19日(金)に研究会・協力会の総会が行われました

今年度は全国大会が大阪で行われることもあり、いつもより2週間程度早く、5月19日(金)に府立高津高校記念館1階で、大阪府高等学校生物教育研究会の総会と本協力会の総会が行われました。研究会の総会と協力会の総会の間には、大阪公立大学特任教授の幸田正典先生による「ホンソメワケベラの鏡像自己認知の発見が意味すること」という表題のご講演もありました。

講演の後、協力会の総会となりました。とりあえずその内容を報告させていただきます。

1. 会長挨拶 本会会長の大島みどり先生よりご挨拶がありました。8月大阪開催の日本生物教育会全国大会に向けての協力会の積極的な取り組みについての決意が語られました。
2. 昨年度会務報告・今年度活動予定 会務報告部分では、コロナ禍の影響で協力会だよりの発行、会費請求、会費納入者への研究会誌の発送以外の活動ができなかったことが報告されました。今年度の活動予定については、日本生物教育会全国大会の大阪大会開催に向けて、研究会に対して例年よりも強い支援の表明と、大会への積極参加を含む協力について報告されました。
3. 昨年度決算報告・今年度予算 下記の通りの決算報告が行われ、今年度予算が承認されました。

2022年度会計報告

収入の部	
前年度繰越金	305,753 円
会費・寄付金	137,000 円
内訳	
2000円	3名
3000円	27名
5000円	10名
雑収入	0 円
収入合計	442,753 円

会費に次年度分を含む

差引残高

支出の部	
協力会だよりの会誌郵送料	16,694 円
研究会への補助金	100,000 円
会費振込手数料	5,475 円
支出合計	122,169 円

320,584 円

これを次年度に繰り越します。

2023年5月1日

会計担当 中井 一郎

監査の結果、適正に処理されていたことを確認しました。

2023年5月10日

会計監査 橋 淳治

2023年度会計 予算(案)

収入の部	
前年度繰越金	320,584 円
会費・寄付金	177,000 円
雑収入	0 円
収入合計	497,584 円

支出の部	
協力会だよりの会誌郵送料	20,000 円
研究会への補助金	100,000 円
会費振込手数料	8,000 円
全国大会記念誌への広告料	50,000 円
全国大会記念誌買い取り料	50,000 円
予備費	269,584 円
支出合計	497,584 円

4. 助成金贈呈

本協力会会長大島みどりより、研究会会長柴原信彦先生に、協力会からの助成金(会計処理上は協力会への補助金)10万円の贈呈式が行われました。また今年度は、これに加えて、全国大会要項集に協力会の広告を掲載することで5万円、協力会員で日ごろの会費以外に(協力会で呼びかけた)寄付にご協力いただいた方へお送りする記念誌の購入費名目で5万円、合わせて10万円の支援を行うことが表明されました。



＜ご紹介＞中野俊勝先生の本

協力会元会長の中野俊勝先生が、電子書籍の形で「つながり・教職の魅力」という表題の書籍を発行されました。Amazonを確認したところ、Kindle版800円で販売されていました(Kinndle会員は0円で読めるとのことです)。研究会での活動、前の日生教大阪大会、生物部の活動などの話も掲載されています。興味のあるかたは是非ご一読を…。



足立 堯先生・松本 弘先生のご逝去

協力会会員で研究会の元会長でもある足立 堯先生のご訃報をいただきました。足立先生にはながらく研究会で活躍されており、会長になられたあとも、研究会のさまざまな場面で適切なお指導をいただいていた記憶があります。かつて研究会で作製していた標準テストの作製委員会では、編集の最終段階の最後の会議にご出席をいただき、担当委員が気づかなかった不適切点をよくご指摘いただきました。厳しいご指摘なのですが、温和で爽やかな笑顔で話されるので、たいへんすがすがしく感じたように記憶しています。大島会長、澄川先生経由の退職校長会「春秋会」の情報なので亡くなられた事情はよくわかりません。一昨年秋に瑞宝小受章を授章された際に「協力会だより」第26号に近況報告をいただき、その中で「定年退職をして30年近くなり…」とお書きいただいております。ほぼ90歳の天寿をまっとうされたものと思っております。

また、協力会の元幹事の松本 弘先生がご逝去されたとの連絡を妹の市川郁代さまからいただきました。今年3月30日に享年77歳でお亡くなりになられたとのこと。体調を崩して入院されていたとかいうわけではなく、一人住まいのご自宅での急なご逝去と聞いております。松本先生は、長らく研究会の委員もされており、高校生物の授業の中で、生物学の内容を単に知識として理解させるのではなく、研究史の視点から探究的に取り扱う取り組みを早くから行っておられた記憶があります。また、歴史や文学にも造詣が深く、協力会の事務局が変わる前までは、10回にわたって歴史散歩の会が催されており、松本先生が講師兼案内役をされていたと聞いています。ここ数年は、協力会だよりをお送りしてもご連絡がなく、どのように過ごされているのか心配しておりましたが、実際にはお亡くなりになる直前までご自宅でお元気に過ごされていたとのことでした。お二人の御先達のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。 (記：中井一郎)

なお、松本先生の妹様から何か連絡があればと連絡先を聞いております。

事務局中井までお問い合わせください。

日本生物教育会第77回全国大会（大阪大会）

日本生物教育会第77回全国大会（大阪大会）については、副会長井上先生のごあいさつの中に詳細があります。そこで、次ページ以降に全国大会のようすが垣間見えるよう写真等を掲載します。あまり高価な紙が使えないので、裏写りしているのはご容赦ください。

8月10日(木) 日本生物教育会全国大会 開会式

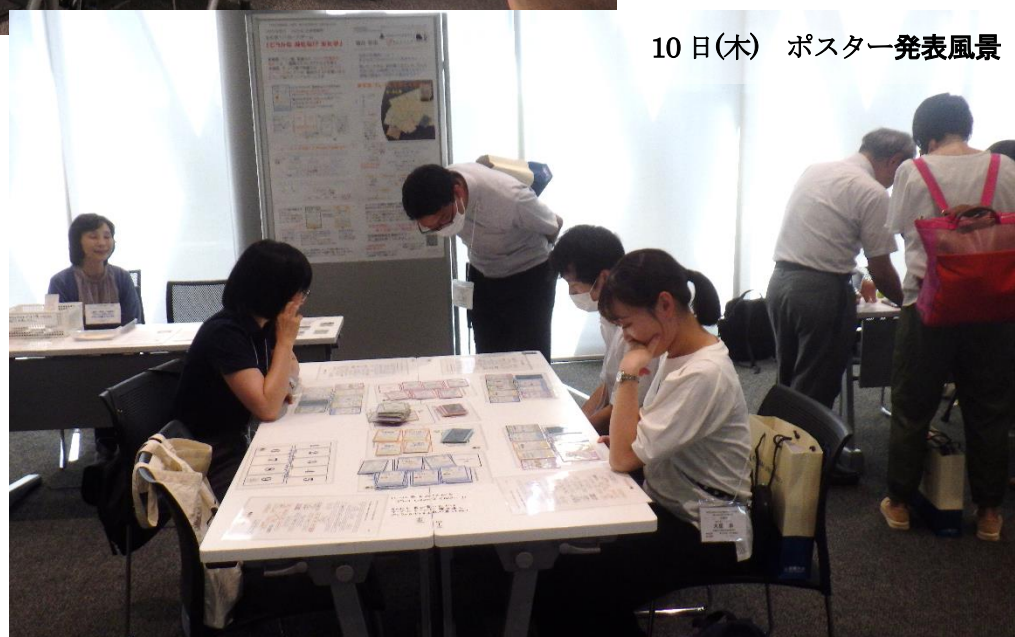
司会横の席に教育会名誉理事として中野・牧野両先生が着席されています



10日(木) 研究発表風景



10日(木) ポスター発表風景



10日(木)夜 懇親会風景



左から、中野先生、事務局中井、(一人飛ばして)木村先生、(その上)川崎先生、事務局橋、事務局北浦、井上副会長、牧野先生、大島会長、幸川先生



広瀬先生(左)、佃先生(右)



大島会長(左)、寺岡先生(右)

全国大会の要項には右のような全面広告を掲載させていただきました。その広告料の形で5万円を研究会に寄付させていただきました。 →

祝
日本生物教育会第77回全国大会

2023

< 大阪大会 >



大阪府高等学校生物教育研究会
協力会 有志一同



大阪府高等学校生物教育研究会協力会は、大阪府高等学校生物教育研究会のOld Person 有志が集まった任意団体です。大阪府高等学校生物教育研究会の活動を心から支援しています。

連絡

1. 会員登録（会費振り込み）をお願いします。

次項で、今年度の会員登録者（会費振り込み済）をあげさせていただいております。会員登録をいただきましたみなさまには、研究会から贈呈いただいた今年度の会誌を同封しております(研究会から配布されるであろう賛助会員及び総会参加者には同封していません)。

また、会費納入に際して、全国大会に向けた寄付をしていただきましたみなさまには、研究会から購入した(形で寄付をしたのですが)記念誌も同封させていただきました。こちらも全国大会に参加され、記念誌をお持ちの方には同封しておりませんのでご了承ください。

昨年度までの会員で、今年度登録をされていない方には、本協力会だよりとともに振込用紙を送らせていただきました。よろしければ会員登録をお願いします。会費は正会員 3,000 円、賛助会員 2,000 円ですが、寄付を上乗せして振り込んでいただいても大歓迎です。

2. 令和 5 (2023)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』会員

(R 5 . 8 . 3 1 . 現在、敬称略。令和 5 年度会費納入者名のみを示します)

(正会員) (記載順はアイウエオ順)

石崎 英男	井上 慎一	江坂 高志	大江 進	大島 みどり	奥本 隆
小畑 和人	加賀 友子	川崎 智郎	河添 純子	北浦 隆生	木村 進
幸川 由美子	佐々木 洋一	澄川 冬彦	竹林 隆昭	橘 淳治	田中 正視
辻本 昭信	寺岡 正裕	富田 織江	中井 一郎	長尾 祐司	中野 俊勝
平岡 誠志	福坂 邦男	古久保 俊子	牧野 修司	松田 仁志	安井 博司
山住 一郎	渡邊 勉治郎				

(以上 32 名)

(賛助会員)

柴原 信彦 中村 哲也

(以上 2 名)

3. 令和 5(2023)年『大阪府高等学校生物教育研究会協力会』役員

- ・会長……大島 みどり ・副会長……井上 慎一
- ・幹事……北浦 隆生, 中井 一郎, 橘 淳治
- ・賛助会員代表……柴原 信彦 (研究会会長)
- ・事務局 (事務局長……北浦 隆生, 会計……中井 一郎, 会計監査……橘 淳治)

事務局へのお問い合わせは、追手門学院大手前高等学校(06-6942-2235)中井

または、北浦 隆生 (586-0007 河内長野市松ヶ丘東町 1349-1)

中井 一郎 (545-0001 阿倍野区天王寺町北 3-4-15) まで。

4. 会員からの近況報告（敬称略）

この欄は、振込用紙やはがき等により連絡があったものを記載します。皆様もどうか一報ください。

事務局到着順に敬称略で記載しております。句読点は適宜事務局でつけています。

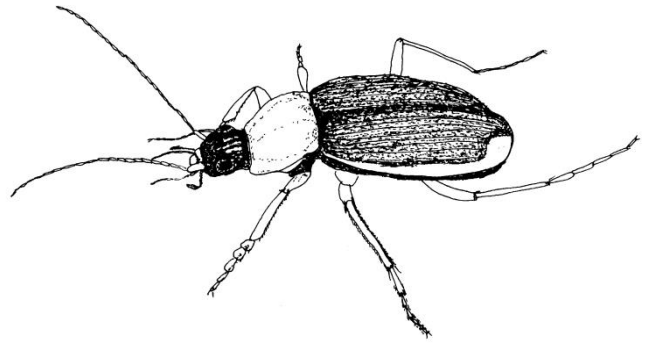
- ・住職を務め、生命と「いのち」について学んでいます。庭木や草花の栽培、森林浴（山歩き）旅行を楽しんでいます。（辻本 昭信）
- ・この4月より、大阪国際大学・大阪国際短期大学部の基幹教育機構に勤務しています。授業以外の時間は学修支援室で教採や公務員試験受験者等の個別対応をしています。毎日楽しく過ごしています。（幸川 由美子）
- ・日本生物教育会が盛大に行われますよう願っております。（牧野 修司）
- ・いよいよ今年の8月に日生教全国大会大阪大会が迫ってまいりました。よろしくご支援の程、お願い申し上げます。（柴原 信彦＝研究会会長）
- ・昨年、生徒生物研究発表会に久しぶりに出席しました。充実した研究発表に、今夏の全国大会に向けてのパワーを感じました。（中野 俊勝）
- ・協力会のご活躍を祈ります。日生教大阪大会の後援団体に大阪府教育委員会の名がないのは淋しく思います。なぜでしょうか。（渡邊 勉治郎）
→この件については、事務局から回答します。大阪府の行政組織の改編で、大阪府は「教育庁」になっています。大阪府教育庁は後援団体に含まれています。
- ・今年は、久しぶりの日生教大会が大阪で行われる記念の年ですね。おめでとうございます。前回の時は、何もお役に立てず申し訳なく思っています。この大会が無事成功裏に終わりますようお願いいたします。（竹林 隆昭）
- ・協力会のご活躍を祈ります。日生教大阪大会の後援団体に大阪府教育委員会の名がないのは淋しく思います。なぜでしょうか。（渡邊 勉治郎）
- ・日生教大阪大会おめでとうございます。皆様のお蔭で立派な大会が計画されていて、うれしく存じます。（加賀 友子）
- ・お世話いただきありがとうございます。5月19日に総会には出席できればと思っております。（平岡 誠志）＝確か出席されていたと思います
- ・日生教大阪大会おめでとうございます。皆様のお蔭で立派な大会が計画されていて、うれしく存じます。
- ・主会場近畿大学。原研、原子炉工学科発足当初在任。バックグラウンド放射線測定。原子炉始動の臨界テスト。思い出が蘇ります。横浜在住。折角の機会乍ら参加は断念せざるを得ず。只々盛会をお祈りしております。（古久保 俊子）
- ・自宅に近い天王山や皆瀬川の周辺を歩きながら自然の観察を楽しむことを日課として過ごしています。（安井 博司）
- ・泉北高校の非常勤講師をしながら、公益社団法人大阪自然環境保全協会の事務局長・理事として充実した日々を送っています。（木村 進）

「大阪府高等学校生物教育研究会協力会」会則

- 名称** 1 本会は「大阪府高等学校生物教育研究会協力会」と称す。
- 目的** 2 本会は、大阪府高等学校生物教育研究会（以下生物研究会と記す）の活動に協力・援助するとともに、会員相互の親睦をはかり、「生物」について研鑽することを目的とする。
- 事業** 3 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 生物研究会の活動に対する助成
 - (2) 見学・観察・研修会の開催（年1回程度の独自開催または生物研究会行事への参加）
 - (3) 懇親会（総会）の開催
- 事務局** 4 本会は、前条の事業を行うため、事務局を本会事務局長の自宅に、会計事務局を本会会計の自宅に置く。
- 会員** 5 本会の趣旨に賛同した次の者を会員とする。
- (1) 正会員（退職の生物研究会関係者）退職会員・名誉顧問・名誉会員
 - (2) 賛助会員（現役の生物研究会関係者）会長・副会長等
- 役員** 6 本会に次の役員をおく。役員は総会で選出し、その任期は3年とする。
- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 1名
 - (3) 幹事 若干名（事務・会計・会計監査も担当）
 - (4) 賛助会員代表 2名
- 会議** 7 本会に次の会議を設ける。
- (1) 総会（活動計画報告、決算等を行う。また会員相互の親睦を図る。）
 - (2) 役員会（会長が必要に応じて役員を招集し、会の運営に必要な事項を決める。）
- 会費** 8 本会の会費は正会員については年間3,000円、賛助会員は2,000円とする。なお、寄付金は会費納入時または随時に受け入れる。
- 会則の改定** 9 本会の会則の改定は、総会において審議し、その決定には出席者の3分の2以上の同意を要する。
- (附則)
1. 本会の設立年月日は、2009年6月3日とする。
 2. 本会則は、2009年6月3日より施行する。
 3. 本会則は、2019年5月31日にその一部を改訂し、同日よりこれを施行する。

大阪の生き物4 オオサカアオゴミムシ *Chlaenius pericallus*

筆者は、水生昆虫を描きたくて、時々ペンを走らせますが、成虫の絵は苦手で、特に甲虫の鞘翅はうまく描けません。「大阪」名の生き物を探して、ようやくオオサカアオゴミムシにたどり着いたのですが、もちろん実物はないし、参考にできる写真やイラストもあまりありません。とりあえず見



つけた何枚かの写真をもとにスケッチを試みました。イラストの色をつけていない部分は比較的鮮やかなオレンジ色で、鞘翅の黒い部分は日本の高い墨(?)の色のように、黒色に緑がかかった色を含みます。頭部は赤銅色ですが緑色の金属光沢があり、ゴミムシ類中でもなかなかのスタイリストです。体長は12mm程度で、ゴミムシですから歩行的の昆虫で、ほとんど飛びません。比較的自生度の高い湿地や河川敷、水田などで見られます。オレンジの模様が特徴的で、見分けるのは難しくありません。

記載年が1867年ですから、古くから知られており、大阪でtype標本が採取されたため、この名がついていると聞いています。自然史博物館のHPには、「淀川の河川敷にすむが少ない。枚方で記録がある」と記載されています。

ところが、環境省の日本のレッドデータ検索システムを調べると、(情報不足扱いにはなっているもの)大阪府と京都府が「絶滅」のカテゴリーに分類されています。いくつかのHPの記載を調べていくと、「盤石な生息地は関東地方の平野部にある。本種は西日本ほど発見しづらく、大阪府では長らく採れたという話を聞かない。」と書かれていました。「大阪」の名前を持ちながら、近畿地方ではすでに絶滅したというのです(福井や岡山、徳島、愛媛では記録あり)。底史寂しい気がするとともに、枚方の記録はいつのものかな?と思っています。

「関東の平野部では盤石」とは言え、埼玉・神奈川が絶滅危惧Ⅰ類、千葉が絶滅危惧Ⅱ類、栃木が準絶滅危惧に指定しています。一応、九州・四国・本州の関東以西に分布していることになってはいますが、非常に少ない生き物であることは間違いないようです。中国のBaidu百科には、同じ学名、「麗青歩甲」という中国名で、北京、河北、河南、湖北等に生息と書かれているので、日本以外でも生息しているようです。ちなみにこのHPには、オオサカアオゴミムシを「最美麗種(日本語で最も美しく美しい種の意味)」と紹介しています。

大阪で発見され、(和名だけとは言え)せつかく大阪の名前が付いたのに、大阪から姿を消した美麗虫。比較的珍しい種なので、「情報不足」なら、まだどこかでこっそりと暮らしているかも…。皆さんもすこし自然の残る水辺で、地面を歩いている生き物を探してみても…。 (文責 中井一郎)

協会だよりの紙面構成(つまり埋め草)のため、「大阪の生き物」を掲載しています。「大阪名」の生き物はそれほど多くなく、毎回題材探しに苦慮しています。ご存じの生き物がありましたらぜひご紹介ください。ただし筆者のイラスト能力に限りがあるので、お教えいただいた生き物を掲載できない場合もあります。